

### 第3回榛原地域小学校の統合について協議する会議事録【概要】

R8.5.29 19:00～

宇陀市役所 4F 大会議室

#### 1 開会

#### 2 教育長挨拶

#### 3 議事

##### (1) 榛原地域小学校の統合場所について

- ・榛原地区児童・幼児等人数一覧 資料1
- ・榛原地区小学校の全校児童数予測) 資料2
- ・施設の比較検討について 参考資料

#### 【事務局より】

- 再度、協議会の趣旨等の説明を行う。
- 令和8年5月現在の児童・幼児数および令和14年度までの児童数予測資料に基づき、全体として児童数が減少(令和14年には300人を切る予測)している現状を共有。
- 基本計画案で、統合先として榛原小学校を選定した経緯と理由を説明。  
〈通学環境・児童数分布〉在籍児童数が、最も多く現状に近い通学環境が維持できること、徒歩通学が多く通学方法を維持できること、3校の地理的中心に位置し負担が最小限であること。  
〈校舎施設の状況〉既存施設を現状のまま活用することを前提とした場合、内部改修のみで対応可能で工事期間が短く、増改築不要で事業費を低減できるため。(榛原東小学校は大規模改造による長期化・費用増大、榛原西小学校は施設規模が小さく大規模増改築が必要となる課題を提示。)
- 今後の具体的な計画や方針に保護者の意見を反映させるため、通学環境への懸念や学校運営への要望等に関するアンケート調査を実施し、次回会議で結果を公表する方針を提示。

#### 【委員からの意見等】

- ・ しらゆり保育園の保護者を対象に、先行してアンケートを実施したところ、中心点であることや歴史の原点であることから、榛原小学校を支持する声があった。一方で、大人の都合で統合が長期化し、子どもにしわ寄せがいくことへの懸念や、現在は保育園で一緒だった友だちが、小学校に行くとバラバラに離れてしまうため、早く統合してみんなに会えることを望む子どもの声も報告された。また、具体的な対

応や各校の比較(榛原東小学校の和式トイレ問題等)を市から明確に提示しなければ、保護者も意見を出せないとの指摘があった。

(事務局より)

- しらゆり保育園での先行アンケートに感謝するとともに、今後は令和8年4月に開設された、榛原こども園の保護者等も含めて、市としてアンケートを実施し、第4回の会議で結果を示したい。
- ・ 保護者からは、具体的に場所が決まった後の通学等の対応策を早く提示してほしいという要望がある。環境整備を子ども中心で進めるべきであり、現状の不透明な状態が続けば転校を検討する保護者もいるため、早期の決定と具体策の開示を求める。
- ・ 現実問題として、榛原小学校への統合自体に強い反対はないと思われる。地域の高齢化・少子化は深刻であり、地域の見守り活動なども高齢化で困難になる。内牧は平均年齢55歳超、東榛原は平均年齢53歳、榛原は平均年齢33歳と非常に若い。過去・現在・未来を見据えた大きな流れとして、平均年齢が若く、人が集まる中心である榛原小学校に学校を集約していくことは、自然の流れであり賛成である。
- ・ 議会や協議会で揉めている背景には、行政側の進め方の問題もある。当初、基本計画で「榛原地域の小学校を1つにし、統合後に使用する校舎は榛原小学校とする」という方針が出された際、地元自治会(榛原連合自治会等)への事前説明がないまま、市長から事後報告されたため、自治会側から強い異議が唱えられた。かつての伊那佐地区の統合時には、丁寧なプロセスがあったが、今回はそれが欠けていた。
- ・ 議会が予算を否決した理由も、LED化やトイレ洋式化、そのものへの反対ではなく、拙速な統合プロセスや計画(学童施設をわざわざ交通量の多い榛原幼稚園跡地に持っていく計画の是非、不使用の給食センター敷地の活用検討不足など)に対するノーであったと考えられる。子どもの未来と言うが、統合によって不登校児童などの教育環境が本当に保証されるのか、地域との議論も含めて、きめ細かく地域の声を聞き、道順を慎重に考えて進めるべきである。
- ・ 施設面や客観的なデータから示された方針には理解できるし、基本的にはその方向で良いと考えている。ただし、すべての条件を満たすベストな選択肢はない。前回の会議でも指摘があったとおり、榛原小学校は周辺に緑が少なく住宅地であるための騒音環境などの課題もある一方、榛原東小学校・榛原西小学校は緑に恵まれているといった環境面の違いなど、様々な要素を捉える必要がある。

- ・ 保護者代表としては、通学方法の安全性や学童保育の場所・送迎方法などの具体策が確定しない段階では、現時点での場所決定には賛成しがたい。また、児童数減少は仕方がないが、現時点の人数をそのまま、まとめるのは多すぎるため、もっと人数が減ってからでもいいのではないかという思いから、現時点では反対である。
- ・ こども園は、すでに運用されているのに、小学校がグズグズしているのはおかしい。早く一緒にさせてあげるべきであり、どこに統合しても大きな差はないため、速やかに決定すべきである。
- ・ 事務局提案の方向性に基本的には賛成だが、実施されるアンケートの結果をしっかりと踏まえた上で、出てきた問題点に対処できる中身を持って判断することが大事である。また、決まった方針については、市が責任を持って、しっかりと地域と膝を突き合わせて話し合い、納得のいくプロセスを踏んで進めてほしい。
- ・ 以前に他地域で学校統合に関わった経験から、統合は地域にとって非常にデリケートな問題である。しかし、榛原西小学校のように、今後複式学級化が進むことが懸念される現状を踏まえると、子どもの教育環境のために、速やかな実施が望ましく、事務局提案に賛成する。
- ・ 児童数予測を見る限り、1校に統合するのはやむを得ない。ただし、かつて伊那佐小学校が閉校した際に避難所がなくなって地域が困った経験がある。榛原東小学校や榛原西小学校が閉校となった場合の、地域の避難所としての機能維持や跡地活用についても事前に考慮すべきである。
- ・ 将来的に榛原地域だけで児童数が200人を切る予測もあり、将来的には宇陀市全体で1校になる可能性もある。そうした大きな流れを見据えて、1校への統合自体には賛成である。
- ・ 中心地である榛原小学校への統合自体には賛成だが、こども園統合時の保護者の不満や課題を教訓とし、保護者が納得する進め方をしてほしい。また、現在の榛原東小学校にある通級指導の良さなども新学校へ引き継いでほしい。
- ・ 現在、榛原西小学校と、こども園に子どもを通わせている保護者として、上の子たちのことだけを考えれば、環境変化を恐れて反対したい気持ちもあるが、下の子の将来を思うと、ある程度の人数が揃った環境が良いと考えるため、基本的には賛成である。多様な保護者の意見があることを汲み取ってほしい。
- ・ 学校現場としては、時期がいつになるのかが一番気になる場所である。決まれば、それに合わせて準備を進めるが、単なる空間の移動ではなく、子どもたちの人間関係をスムーズにするための丁寧な交流活動や準備期間が必要となるため、十分な期間を保証してほしい。
- ・ 地域で支えてきた小規模校の良さや、地域の方々の思いを、単なる条件面や数字だけで判断するのではなく、しっかりと汲み取った上で進めてほしい。

(事務局より)

- 保護者の皆様の安全性への懸念や子どもたちに関するご意見を十分に理解して進めるべきだと感じている。これまで、行政側の汗のかき方や地域への丁寧な声の聞き方が不足していた部分もあったと認識している。統合した場合、子どもたちに適切な教育ができる体制を整え、安全面に配慮しながら進めていきたい。

【会長まとめ】

- ・ 今回の会議では、事務局から提示された「榛原地区の小学校を1つにまとめていき、統合後に使用する学校を榛原小学校にする」という方向性に対し、将来的な児童数減少への対応、こども園との連携、複式学級の回避といった観点から、基本的には多くの委員から一定の理解や賛同をいただいた。
- ・ 一方で、具体的に進めるにあたっては、通学の安全性、学童保育の場所や送迎方法、トイレ洋式化などの環境整備について、具体的かつ早期の対応策の提示を求める声が強く出された。
- ・ また、これまでの行政のプロセスに対する指摘や、地域における学校の役割(歴史、活性化、避難所機能など)、小規模校ならではの良さを大切にしてほしいという意見、さらには学校現場から、子どもたちの人間関係をスムーズにするための丁寧な準備期間を保証してほしいという要望など、非常に多角的で貴重な意見をいただいた。
- ・ 今回の議論、および事務局から説明のあった保護者アンケートの結果等も踏まえ、次回、第4回の会議においては、ただ場所を決めるだけでなく、具体的な課題への対応策や合意形成への道筋を含めて、さらに一歩進んだ協議を行えるようにしていきたい。

#### 4 連絡事項

- ・ 今後の保護者アンケートの実施について
- ・ 次回の第4回協議会について(令和8年8月26日開催)

#### 5 閉会